



千習仕用集

千多6
2236

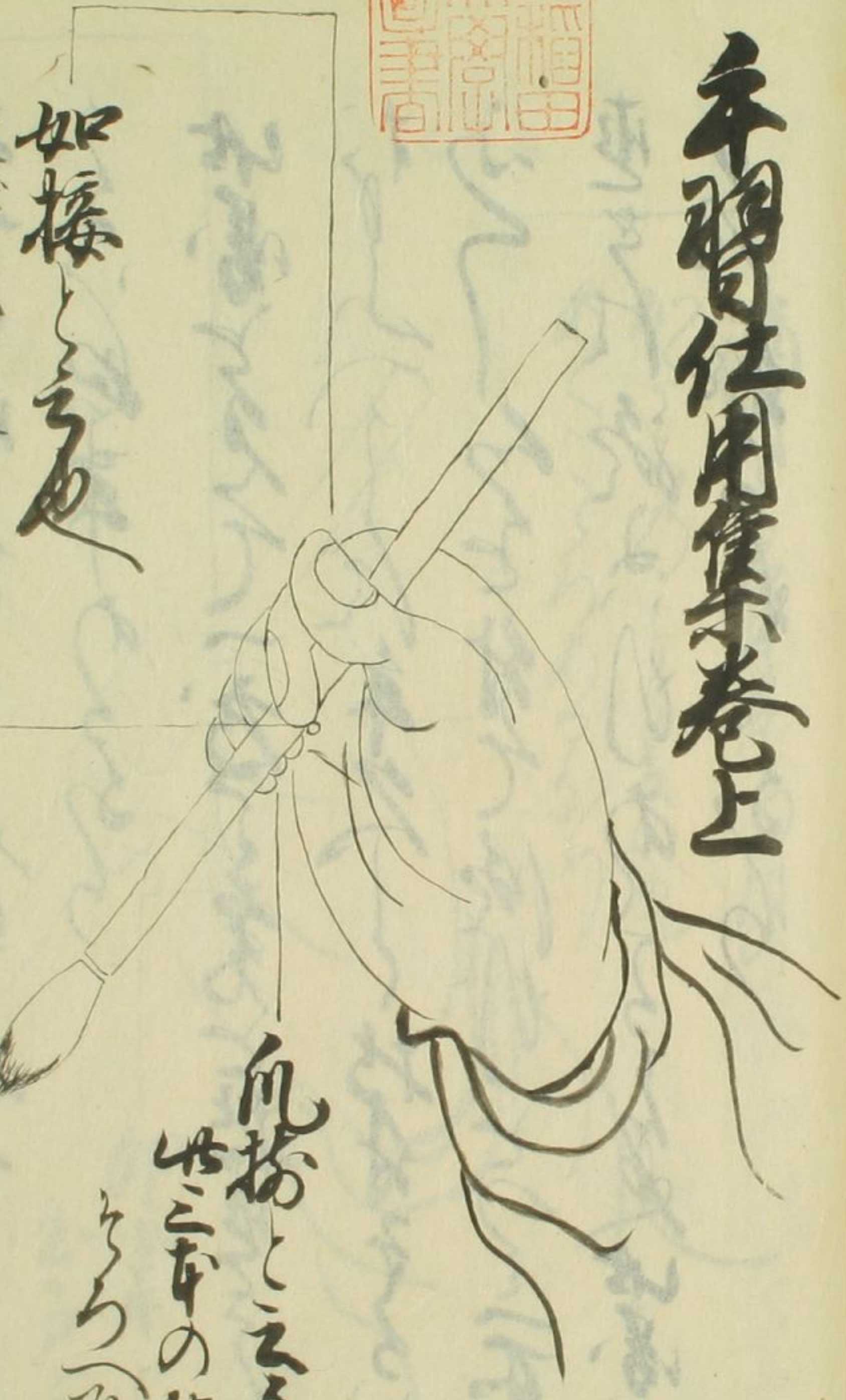


2

Faint blue ink bleed-through text from the reverse side of the page, including vertical columns of characters.



平野仁用集卷上



如接と云ふ也

此等木のたぎたる
こゝ親ゆゑのたぎ
人々の中がごと
志しなり

凡接と云ふなり

世に中
の指先
とらへし

規角と云ふなり

接むる所の中指の凡接の
肉腫と云ふ事なり

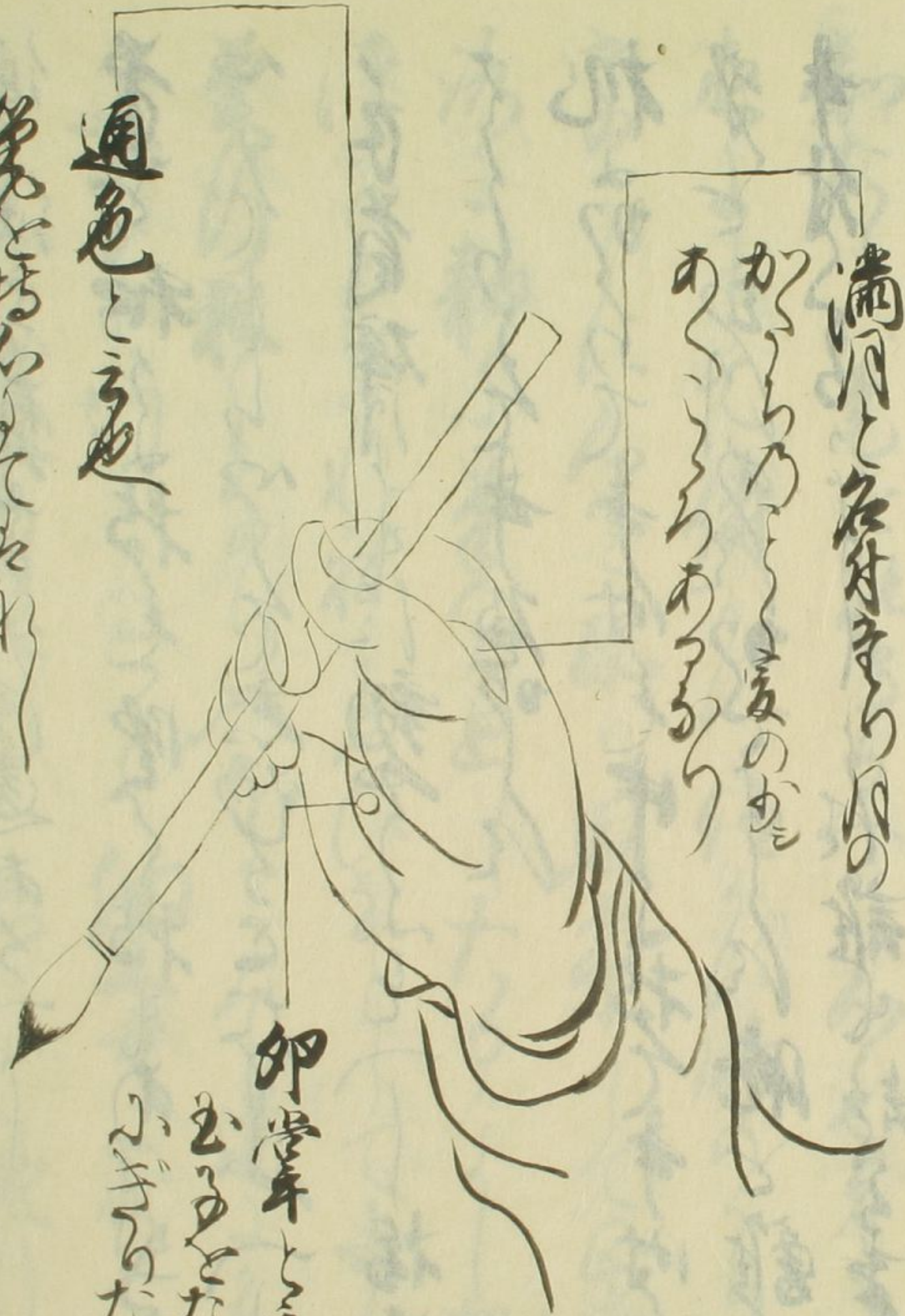


一 年習ふらへんわん若く先巻の持
かふ心を付しし氣癖を我に
持つこれらへて骨と折て本意ふ
まゝに出来ぬあり
一 此巻よりして一巻を巻と持巻と
おぼへて一巻を巻と持巻と
少くし心を付て流りてつと下
巻を流よりのあつたは巻の
るに軽きあり

満月と名付まの
かゝらりて夏の
あつたありあり

卯堂年と名付
玉子と名付
ふぎのたる

通色と名付
巻と持んて
心と名付
侍候あり



一 箋の中程ちがひと持が

但細字真まふは遠あるべし

一 筆と和ふ持を堅く持もあき地

心とてしらすて志むるとなすべし

一 首首骨もくに動ゆるふと一 指先

くらしを筆極めたる

一 机のわらて筆付も中へ持て筆付も

力とてわらめたるは腕と離て

筆付くらしは離も知らず

一 知らずは毛と紙ちがひしは毛もま

まよして俯たはた胸のうらさ

字のしたんを配り思案して心直正

流る静ふ筆とどしたるは机の

法とてしれ縁しうひまよして筆付を

筆の和らみあつたうそ道よまは

文字も明こころ細筆も成るもの

一 筆法は成易れた物と思ひて懐め

も可ら成るは物と思ひて懐を

おたまた可から飛とんたもま
おとてま書んぬ人よこしんすま
不意用放しも控はて年久しく
心色まはれ能書まらうと信んぬ
一筆とまらう本末方一書あらう又
た一妙とらうと右一妙とらうと
かかたとらうとすくすく一但神の
か一右一傾々人の天性生得する道平
一流とていふも昔を先ん能くあひて

一 操乃ほくもさるの和くは真のまら
今らもまらほくい得らうとんたを
脚すきあまら人のたのれが親らうと
多しふ好きて信らうとまらま也
唯りふ事得らまら行要とてし
んまらぬい時のまらふらてしとま
もあらしまらまらあま
一 運業とてまらありも扱く早の
は遅くはまらかた神のしはまら

弱くはせむと云く動と云く一少は
先よして強より弱と運と云くは乃
より子一を云く早、幸人の多あり
ひ

一 智識と云来あり已が利根と云く
又字のひらりと云くまじい多分のとら
遅一と云く早よら月して若者の扱と
されと云く似てとらも云く也
一 神靈と云来あり字の飛らると

似を云くらと云くねと云くまあり
と云くあんと云く静よら云く
見入て書ふ一又字の靈と云くあ
あり目とありふひら云く淋れ
見えぬものありあまよ見えは
たのまが中文字と云く是魂入とあり
一 四映と云来あり又字のまじい
志ありて 津義と云くはく
世と云くと表と云く馬と云くま

一習性と云ふ事あり我とわがこころと
もぢやいふくつ後と云ふ事と子と
物と教ふ事とて我とと導とて曰
事あり。我のあらすけらばと云ふ
出づやういふと云ふ行要と云ふ
いふん付と云ふ事と云ふ事と
やういふ事と云ふ事と云ふ事と
ら福んこと云ふ事と云ふ事と
のつと云ふ事と云ふ事と云ふ事と

一より速きこと云ふ事と云ふ事と
これいふこと云ふ事と云ふ事と
かといふこと云ふ事と云ふ事と
一又字の懐と云ふ事と云ふ事と
云ふこと云ふ事と云ふ事と云ふ事と
云ふこと云ふ事と云ふ事と云ふ事と
一業習と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と

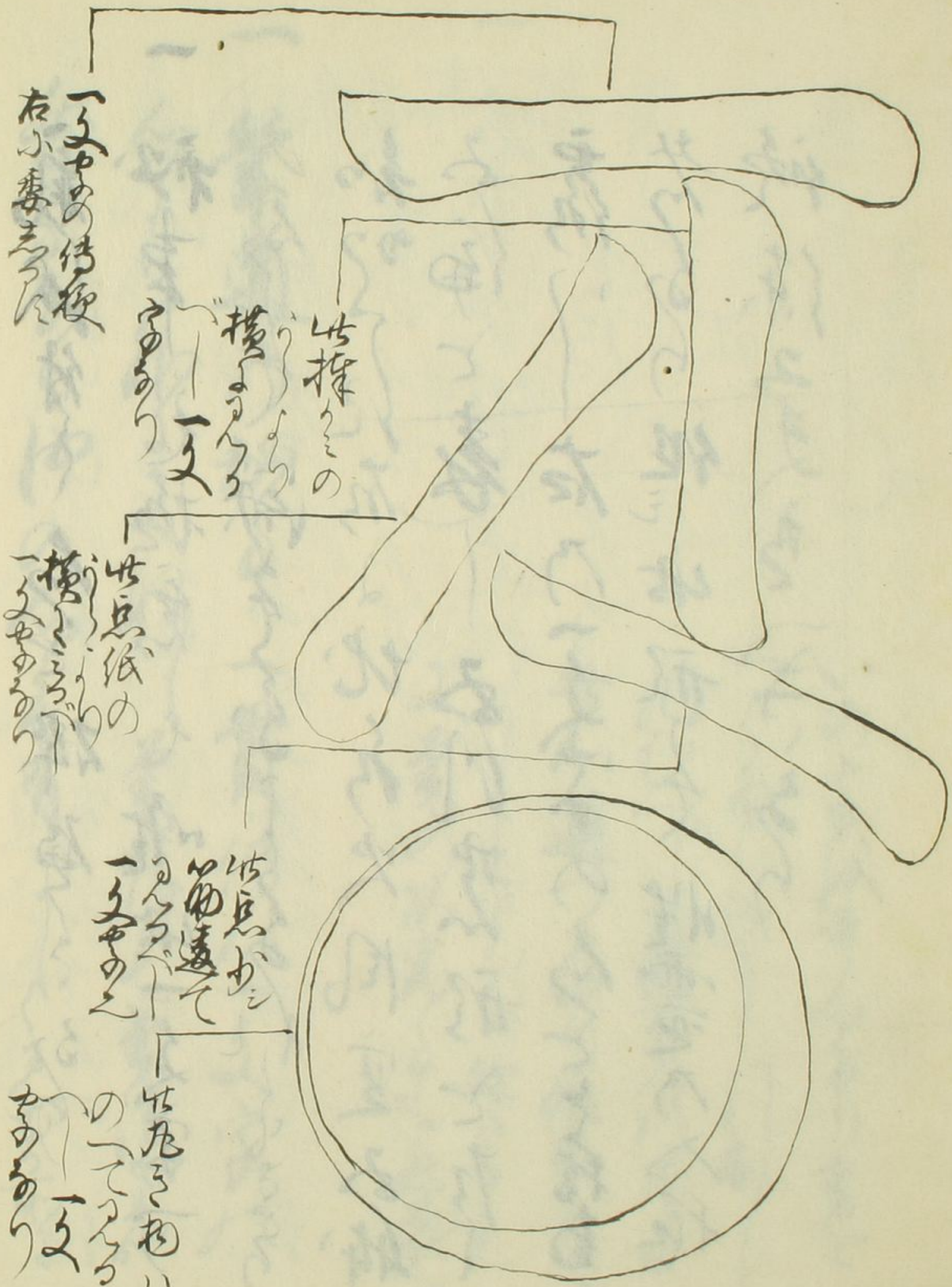
一 芭蕉のつとむる年何れの所から柏子
 と梅子とをいふ大まかき事ありて
 くらむら柏子の巻きたる事と息を
 行ふ事と付く柏子自出るといふ
 一 伊勢とあるは物に里れりて
 ろの之新中並法のものなりとせ
 かつたりの之はつらかつて其
 里れりて我志はつらかつて其
 といふ事ありて其のむしと云はれり

義之の身の存よんは法にのみあり
 入るるはつとていふ
 一 中興とてよ友とらと形とあるは
 かつた好まらるる人とてつらつた
 存らん心の遠く成りたはれなる
 といふことと水とて人ものあり
 一 自ら雪ありて人の右の身とて
 といふ枝のつとて西條の事と

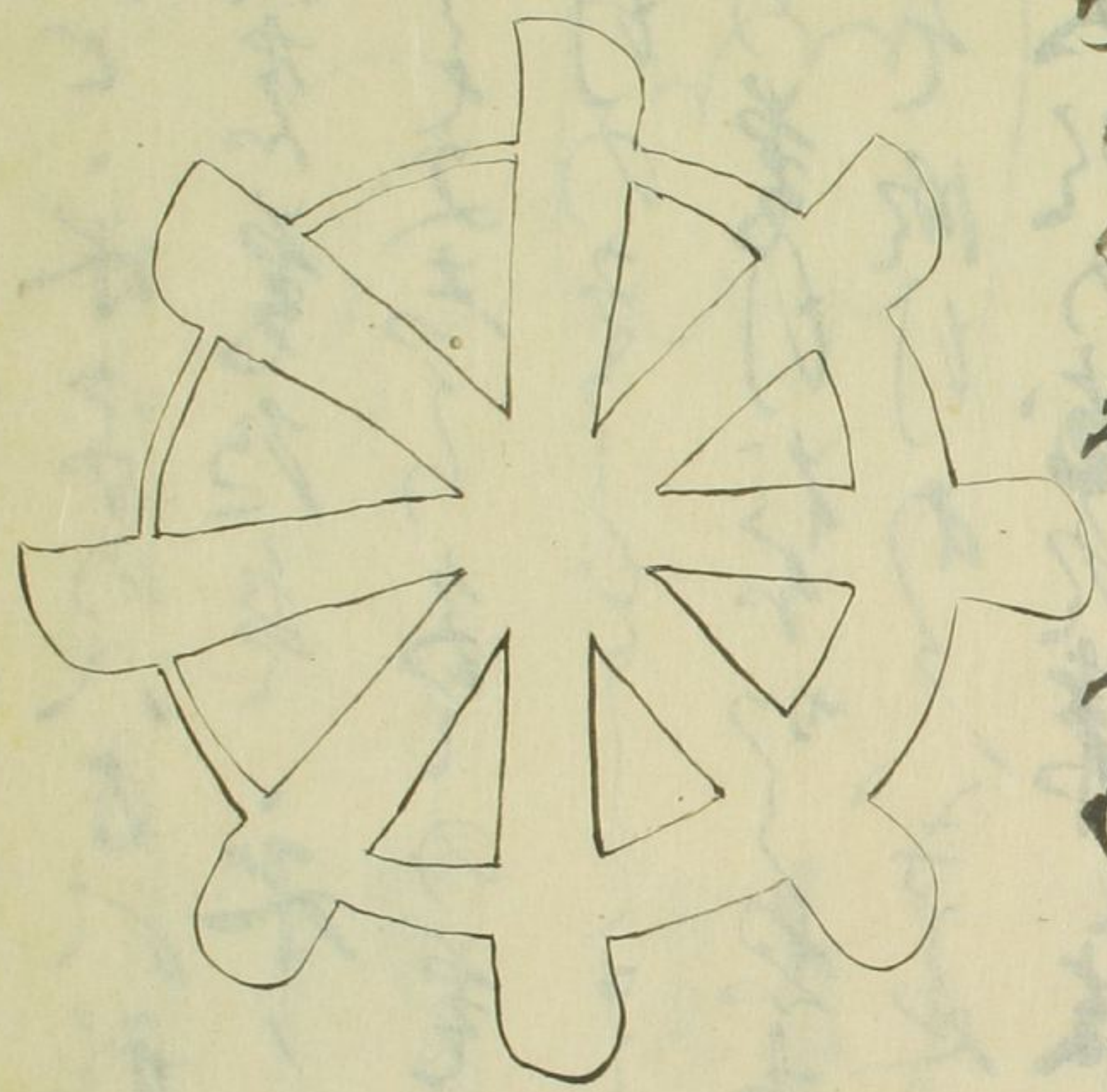
道る此らひ持せんらとらう
やしい右のふと用程あるべし
常く大志をせらる者揚枝等と
持しと兼したるを離れし人
志く如樂しふら物と賢人の徳
一 我よりこころおのりて大志の物と
海に事付らうがし響く事あり
身のあつらふに世にたたらん
語らふに人し見を伴刺らうが

うたのほし勇もあつらふの他
身のまじりし物に用のおふ事
一 胸の志を本也二葉の時ら花
咲実のつ木は大本は成まらぬ
一 草子字義道傳授事

兼てし大文字の疏と事
ふとせらるるに大志の
まらら大志の文字を
兼てし大志の道理を
兼てし大志の事



右のよ愛して一又その行と事と起し
 且又是と合して一神と成て兼法又外ふ
 らんまんと志し志しひらあり

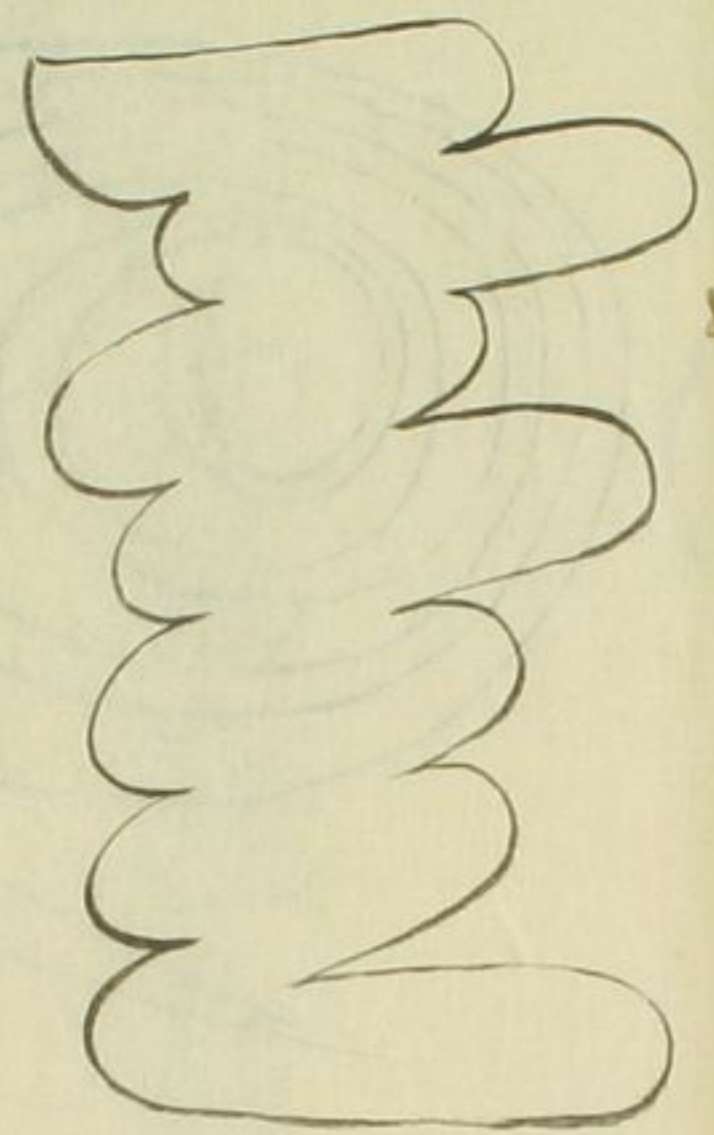


うれの打付
 納り七口か之
 各節の行一又事
 あり
 又之世丸と相ハ
 順も送し
 事知るる

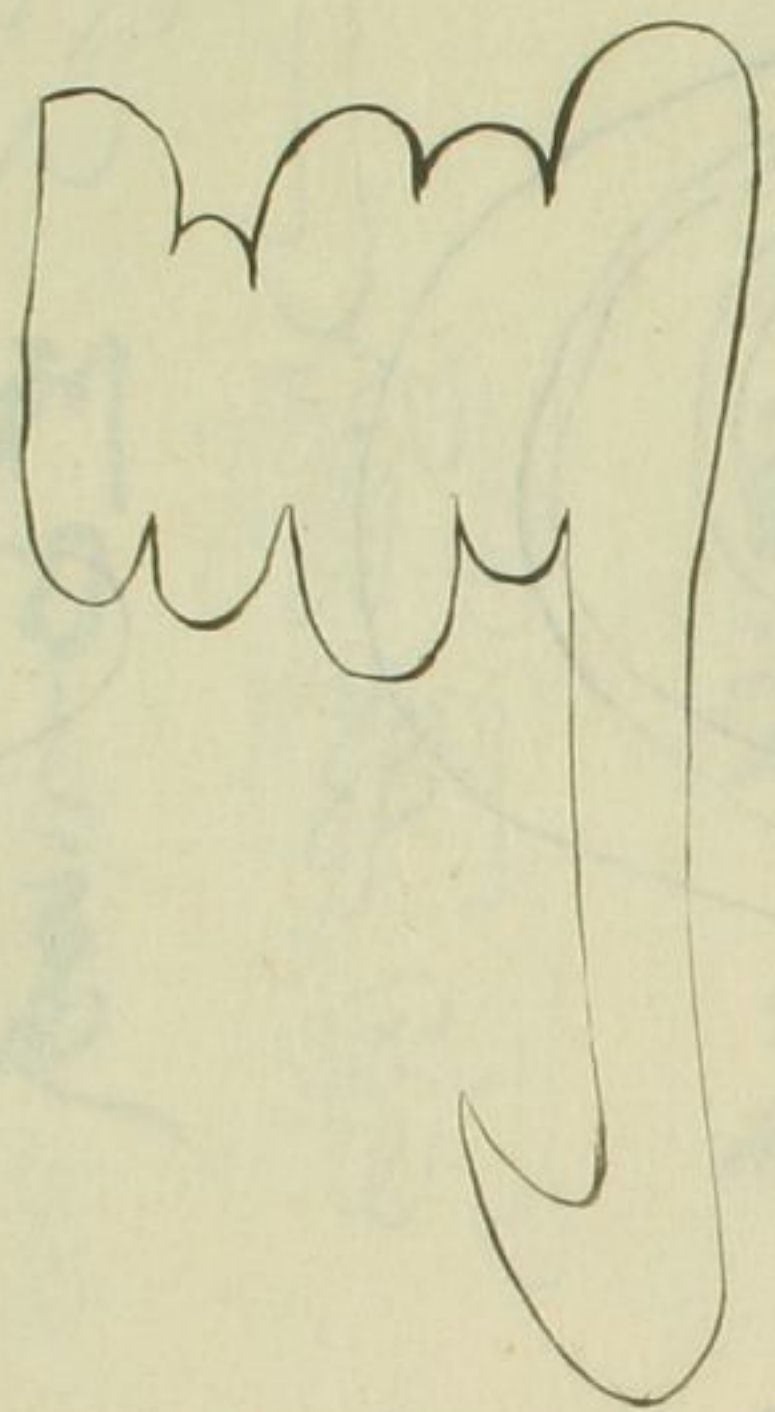
一是と、水字の八の形をいふもの
真の意は乃冬、永一字を以て流す
草の又志らるゝもの、意の有とあるは
流りのきまをいふこと、まゝなるかど
志の意の存不か、想事法命意
して流りあるべき也

右の形の流練之法

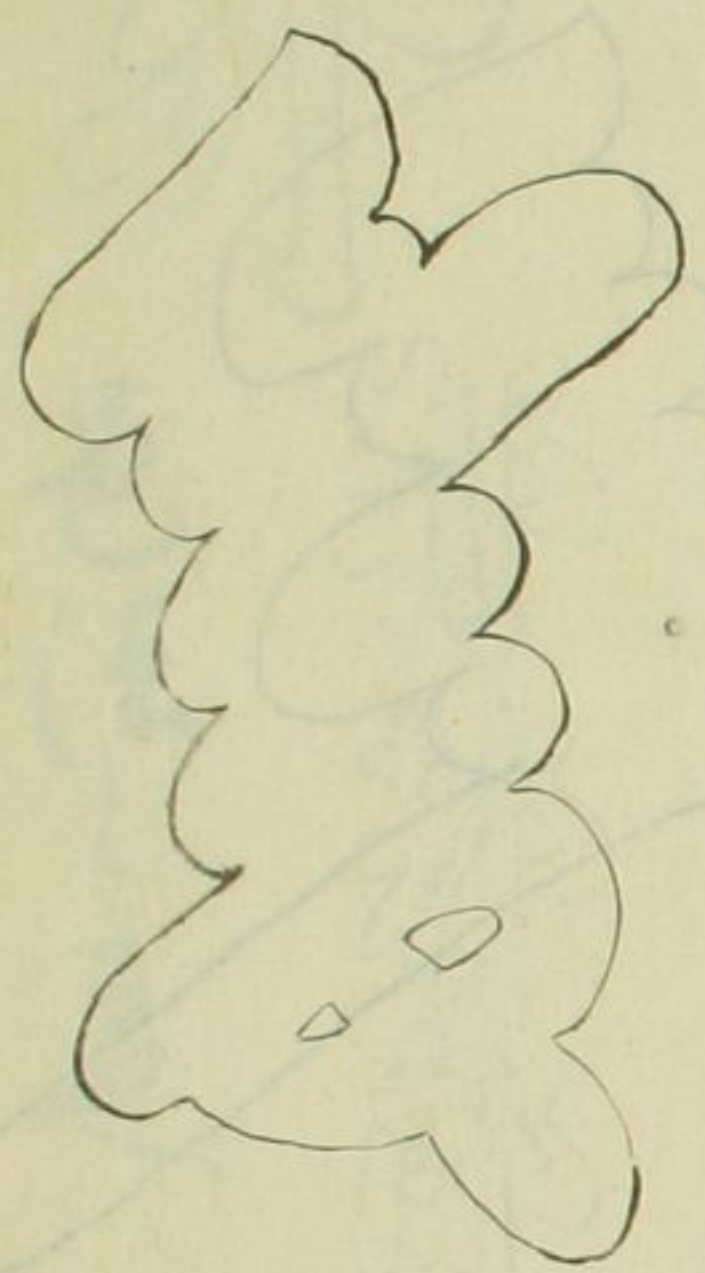
凡そ下の事皆あるかと云て、
これに流練をいふ事あり、
み常に海と云わく、流りのことあり



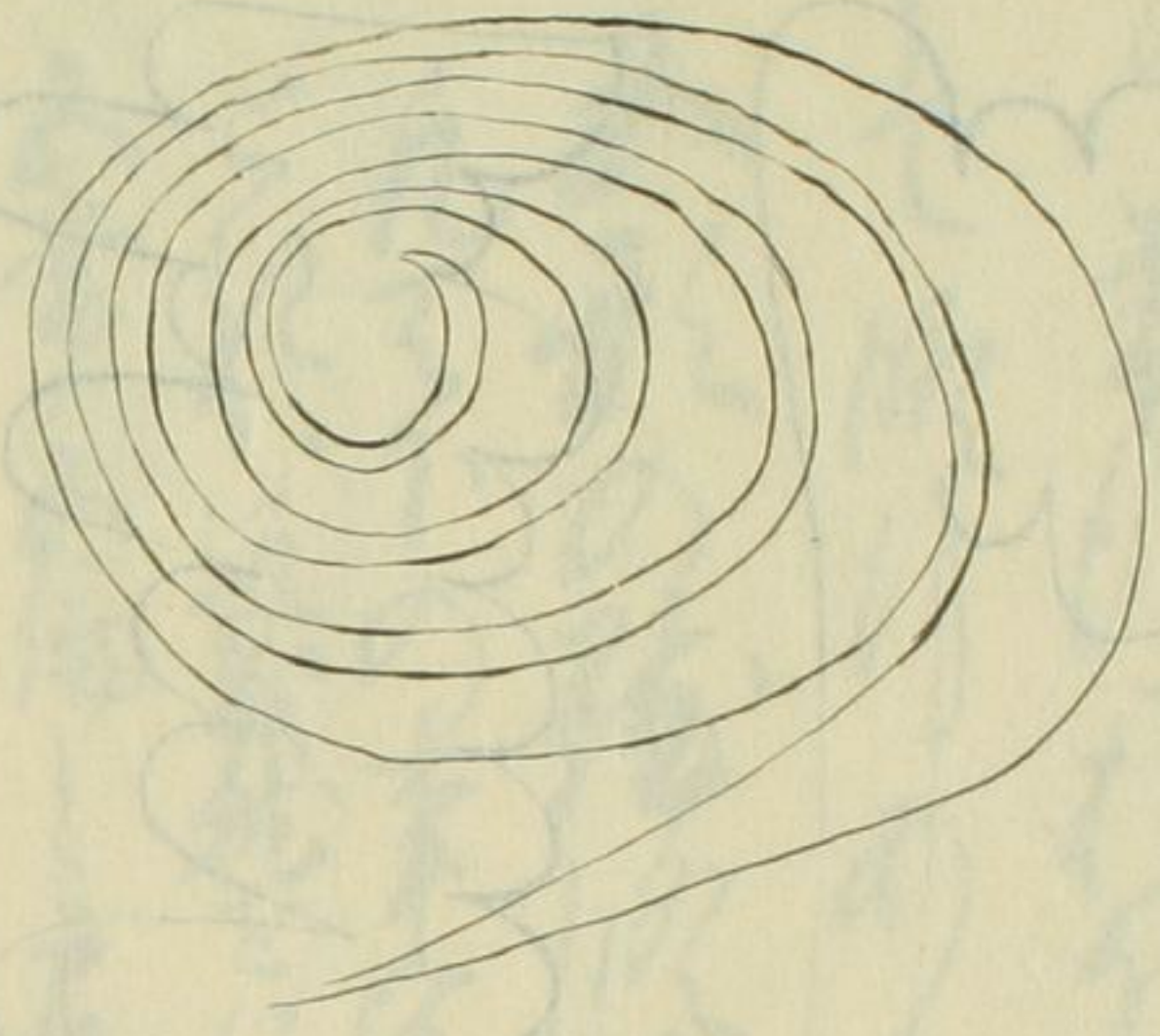
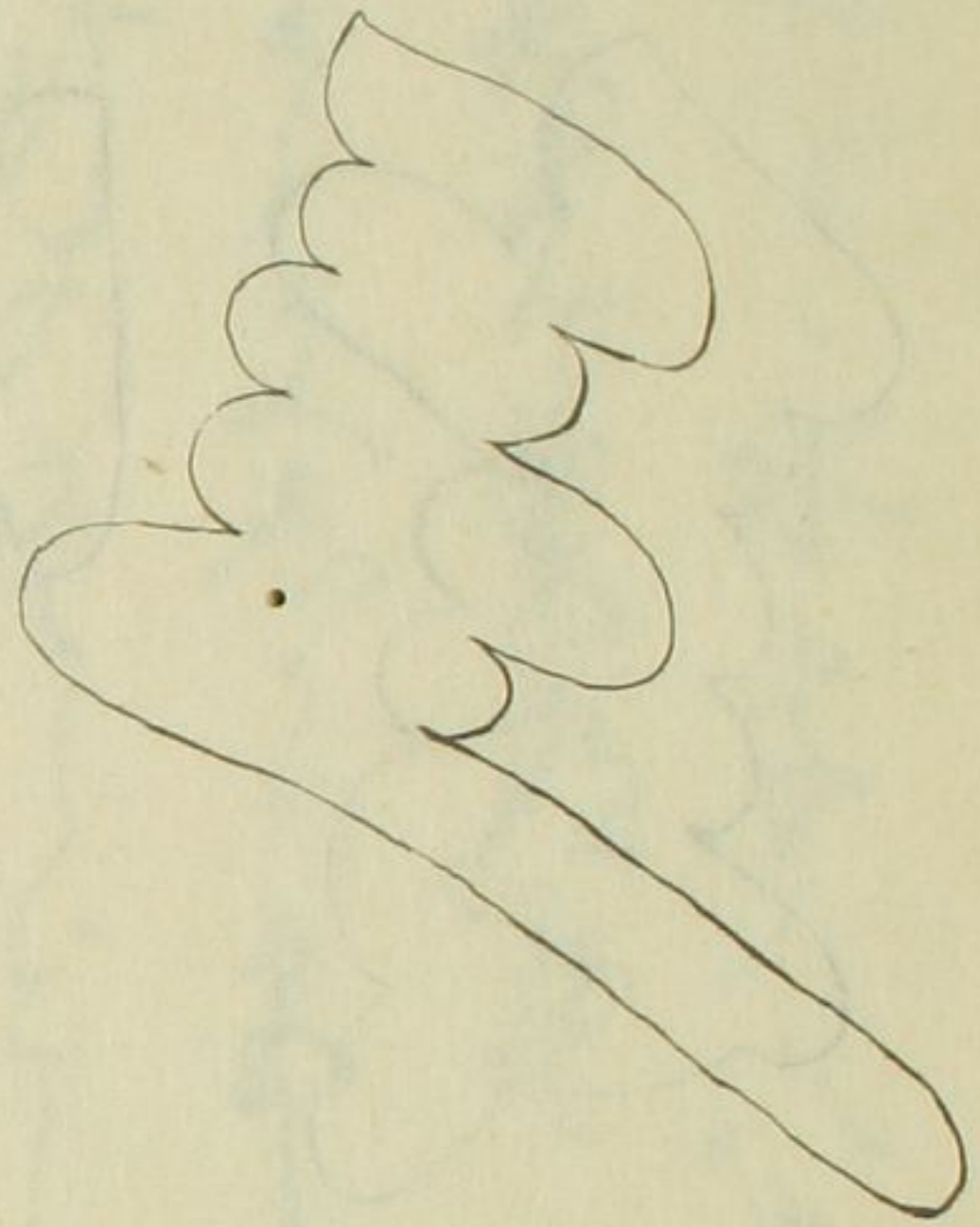
この字の流は、
より子、
是と流り、
出らる



是は、
合は、



加賀、
つ、
とせらる



橋忠一文字の心
會報の心
世の心

世の心
而心
飯名
本易
心
心
心

世
世
世

利
利
利

鄰
鄰
鄰

世の心
心
心

利の心
心
心

鄰の心
心
心

阿

院附限

阜法と云

信物院

鐵櫃と云

師

事

帝半串

出針と云

右の法は... 但し...

... 此の法は...

... 此の法は...

... 此の法は...

命

命命命

命命と云

来

来来来

来来と云

友

友友友

友友と云

... 命命...

... 来来...

... 友友...

花の字の筆致

啄鷲と云

又

又又又
寛楯と云

為

色也為
猿蹄と云

飛

馬也飛
梁形と云

あ

反ああ
輝法と云

向

馬馬馬
柳と云

如新と云
此と云
まきと云

既と云
くわと云

為の字、
半と云
成易と云

馬の息と云
あきと云
てらと云

世字、
字と云
珠句の

懐と云
巻と云
と云

高

高 高 高
返路

高 高 高
返路

乃

乃 乃 乃
乃 乃 乃

乃 乃 乃
乃 乃 乃

の

の の の
の の の

の の の
の の の

乃

乃 乃 乃
乃 乃 乃

乃 乃 乃
乃 乃 乃

乙

乙 乙 乙
乙 乙 乙

乙 乙 乙
乙 乙 乙

乃

乃 乃 乃
乃 乃 乃

乃 乃 乃
乃 乃 乃

礼 礼 礼 礼

部ッ高ウ言味ウリ
常礼と結ウテ
因ッ常とほめて
ウラウリ

去 去 去 去

因ッ高ウ言味ウリ
常礼と結ウテ
因ッ常とほめて
ウラウリ

返 返 返 返

部ッ高ウ言味ウリ
常礼と結ウテ
因ッ常とほめて
ウラウリ

出 出 出 出

部ッ高ウ言味ウリ
常礼と結ウテ
因ッ常とほめて
ウラウリ

依 依 依 依

部ッ高ウ言味ウリ
常礼と結ウテ
因ッ常とほめて
ウラウリ

依 依 依 依

部ッ高ウ言味ウリ
常礼と結ウテ
因ッ常とほめて
ウラウリ

子

孝 孝 好
珠 句 と 是

昔より及く親と母
はこれのまじき懐と
らむにやうにと下

石

石 石 石
石 石 石

石のほくららり
種ごとくあつらひあり
又口のまじきとん
そらよ年毛可あら

宍

宍 宍 宍
宍 宍 宍

冠の二珠も先を横
かして一なるもあつて
すくし初めのうらひ
すくし

戈

戈 戈 戈
戈 戈 戈

昔武院上下の約合
すくすく一とろと
まうおまふ偏り

池

池 池 池
散 水 と 是

昔着らる段でお心
のまじきあつらひの
らむにやうにと下
すくすく

進

進 進 進
之 入 と 是

左の下とて後倍
少くまじきあつらひ
やうとつとつと

仕

仕伸行
人篇と走

仕伸行の
人篇と走
仕伸行の
人篇と走

箱

箱管管
算冠と走

箱管管の
算冠と走
箱管管の
算冠と走

側

側点と走
歩と走

側点と走の
歩と走
側点と走の
歩と走

抱

抱出と走
抱露と走

抱出と走の
抱露と走
抱出と走の
抱露と走

竹

竹籜と走
竹籜と走

竹籜と走の
竹籜と走
竹籜と走の
竹籜と走

寸

寸擲と走
寸擲と走

寸擲と走の
寸擲と走
寸擲と走の
寸擲と走

内
内内内
内内内

内内内内内
内内内内内
内内内内内

國
國國國
國國國

國國國國國
國國國國國
國國國國國

鳳
鳳鳳鳳
鳳鳳鳳

鳳鳳鳳鳳鳳
鳳鳳鳳鳳鳳
鳳鳳鳳鳳鳳

氏
武氏氏
武氏氏

武氏氏武氏氏
武氏氏武氏氏
武氏氏武氏氏

未
未未未
未未未

未未未未未
未未未未未
未未未未未

水
水水水
水水水

水水水水水
水水水水水
水水水水水

見

先見候
枝横と走

弟とありあり
つらつらありあり
小用と細と

女

安女と走
黄志と走

世傳候
女とあり

回

曲百白
舊道と走

世の字とあり
懐ひありあり

下

下下取
下下取と走

赤とありあり
黄とありあり

初

初初
初初と走

右とありあり
懐ありあり

也

地地地
岸渚と走

凡とありあり
表とありあり

毎

毎梅海
全懐と意

世帯目作のし
日復の根心ゆ

脊

脊奉泰脊
見報と意

世帯夫如心ゆ
中のうとく物根
世帯のうとく物根
易のうとく物根

弓

弓常尾人
麟角と意

世帯付常尾のうとく
肉のうとく物根

不

不火欠具
不情と意

世帯と字のうとく
食のうとく物根

不

不火欠具
不情と意

世帯と字のうとく
食のうとく物根

月

月用自因
曲人と意

世帯のうとく物根
世帯のうとく物根

心
真心と云

心は心の中にある
心は心の中にある

忌
下んと云

始の武つは并おき
て後にはおき

力
右と云

力の字は力
の字は力

茶
返桃と云

茶は茶の
返桃は返桃

筆
如翠と云

筆は筆の
如翠は如翠

孤
家豪と云

孤は孤の
家豪は家豪

有

帝鶴と走

蝶形のふゆり
又字つまやう
付くまきこ

有

自貝目
蕪形と走

世のなきを
若の早き
信とて

樂

樂
蜻蛉と走

妙力掛る
中かう
中へ

花

花
就居と走

世の
初
下

上

上
折借と走

上
初
下

心

心
弱流と走

心
下

山

幽函函

珠卷と巻

右右の鳥かへる
出はつわり字の釣
合はねる字あり

月

月徳花

田萬と巻

世に懐のあま
やうとくちあはる
あふ

甫

用月巻

由萬と巻

右のからり他
と勢とつと持ん
あふ

月

世の目と巻
本定り本
要の字の鳥
まの巻

月

世のこの
くありあり
物合と行要

月

世のこの鳥
か下と
あふ

月

世のよむ川の
拍子あり他
あふ

世のこの鳥
拍子あり他
あふ

中

大

陽

陰

春

夏

秋

冬

起

治

正誠心

中如心

止靜心

子

才

七

戈

信

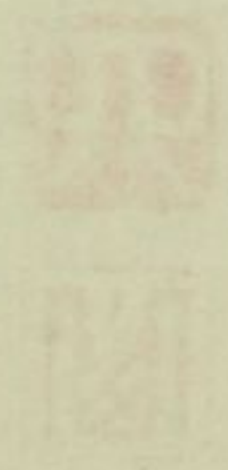
元禄六年正月

水

是日午後先生
之起居也

載

筆ノ拙不云ハ自然ノ有ハ若
尔ハ持来テ云ハ也



Handwritten characters, possibly a name or title, located in the upper right quadrant of the page.

Handwritten characters, possibly a name or title, located in the upper right quadrant of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle right section of the page.

Handwritten characters, possibly a name or title, located in the middle right section of the page.

Handwritten text in cursive script, located in the middle right section of the page.

Large vertical handwritten characters, possibly a name or title, located in the center of the page.



